

補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路(第2部)主語の状態が描写される

著者	山部 順治
雑誌名	清心語文
号	7
ページ	1-24
発行年	2005-07
URL	http://id.nii.ac.jp/1560/00000281/

補助動詞「おく」の諸用法の 共時的つながりと通時的拡張経路

第2部

—主語の状態が描写される—

山 部 順 治

0. 要旨

補助動詞「おく」は、標準語では、例えば、(1)のように使われる。以下では、“主動詞＋補助動詞「おく」”を“「～ておく」構文”と呼び、その部分を(文節単位で)太字・影付きで示す。また、用法の名前を括弧<>で囲んで示す。

- (1) a. 今日のところは**怒られとこう**。<効力の作成>
- b. このまま窓を**開けとこう**。<状態の保持> (目的語の状態は一時的状態)
- c. 扇風機をしばらく止めずに**回しとこう**。<状態の保持> (目的語の状態は運動)

西日本の多くの方言では、これに加えて、(2)の文のような用法が可能である。このような文については、沖裕子(京阪方言、1996など)、高田祥司(大阪方言、1999)、工藤真由美(1999など)による詳細な記述がある。以下では、意味を括弧‘ ’で囲んで示す。

- (2) a. このまま**座とこう**。‘座ってよう’ (主語の一時的状態)
- b. しばらく**踊とこう**。‘踊ってよう’ (主語の運動の進行)

本稿は、(2)のような文が可能な方言に特徴的な諸用法を整理する。

論述の基礎になる資料は、主に、インターネット・ホームページの実例、先行研究があげる例、私(福岡市、1965年生まれ)の内省である。これらを、私の現在の勤務地である岡山市における雑多な観察が補う。

本稿の構成は、次のようである。第1節では、記述のための概念的枠組みを提示するとともに、本稿で扱う対象の範囲を輪郭付ける。第2節では、意志的用法を、第3節では、非意志的用法を点検する。第4節は、まとめである。

1. 記述のための枠組みと本稿が扱う範囲

拙稿2005(以下、“第1部”と称す)では、標準語における補助動詞「おく」を取り上げた。そこでは、語彙の意味は(3)のような3つの特徴からなり、諸用法ではそれらが多様な解釈となって現れる、と論じた。

(3) 補助動詞「おく」の意味特徴（第1部（12））

《イ》：2つの局面

運動（p1）の帰結として状態（p2）が生じる。

《ロ》：認識者

「おく」の表す事態は、その事態の参加者の認識のもとにある。

《ハ》：他動性

局面（p2）においては、主語から離れた領域へ関心が向けられている。

本論文は、これら3つの意味特徴のうち、《ハ》：＜他動性＞をめぐる方言的変異に注目することになる。

この意味特徴は、“状態の局面にp2における主語の様子が描写されない”という用法上の制約となって現れる。解釈には2種類あり、それらに応じた2つの用法がある。(i) (1a)のように、環境の状態について、動詞事態の生起後に残る効力の存在が述べられるか（第1部では、用法A：＜効力の作成＞と称した）、または、(ii) (1b, c)のように対象の状態について述べられる（用法B：＜状態の保持＞）。

この意味特徴／用法制約は、“他動詞である”とは、大きく重なるが、一致しない。主動詞は、(i) 用法A：＜効力の作成＞では、自動詞を含めて意志動詞一般が可能である。(ii) 用法B：＜状態の保持＞では、他動詞に限られ、さらにその中でも、事態において目的語に一時的状態か運動がもたらされるものに限られる。

西日本の多くの方言では、(2)のような文が可能である。つまり、意味特徴＜他動性＞に由来する用法上の制約がない。この現況は、通時的には、(4)の文法変化の結果だ、と言える。



(4) 文法の変化

＜他動性＞の意味特徴が消失する。これに応じて、状態局面p2において主語の様子を描写することができるようになる。

(2)の文では、状態局面p2での主語の様子は、一時的状態（例文2a）、運動（2b）に分類できる。これは、用法Bで、状態局面p2での目的語の様子が、一時的状態（1b）か、運動（1c）であるのと並行的である。(2)の文のほか、同局面での主語の様子が永続的状态である場合も見られる（⇒第3節）。

本論文（＝第2部）や関連する論文（第1部と第3部）で扱われる諸領域の位置関係を図示すると、(5)のようである。第1部では、①②のような文を含む領域を扱った。本論文では、③④のような文を含む領域を扱う。＜他動性＞に由来する制限を免れて可能になる領域である。このうち、③の領域が、沖（1996）、高田（1999）の記述対象である。本稿に続く第3部では、⑤⑥のような文が入る領域を扱う。この領域の諸用法は、非情物主語の諸相である。これについては、拙稿（2001など）の記述がある。

(5)

	意志的	非意志的 おもに人が主語	意志的 非情物が主語
局面p2での主語の様子 が描写されない (＜効力の作成＞ またはく(目的語の) 状態の保持＞)	①今日のところは 怒られとこう／ このまま窓を開け とこう	②2度も試験に落ち ときながらまだ平 気である。	⑤夏前によい試験結 果が 出とく と後が 楽です
主語の状態 (＜一時的状態＞ ＜運動の進行＞また は＜永続的状态＞)	 ③このまま 座とこ う		 ④ええ体しといて風 邪ひいてんの？ ⑥つくしは頭が 開い と かんと食べても 苦い

諸用法は、諸方言において、おおよそ3つの角丸四角形が囲むように分布する。すなわち、③④の用法がある方言では、①②の用法がある。⑤⑥の用法がある方言では、③④の用法がある。通時的变化の方向性に関しては、用法範囲が、矢印の方向にかつて拡張した、あるいはその方向に現在拡張していきつつある、と考えられる。

2. 意志的用法 ―主語の状態が描写される―

第2節では、補助動詞「おく」の意志的用法を扱う。沖（1996など、京阪方言）、高田（1999、大阪方言）、工藤（1999など）によって指摘された事実を、本稿の枠組みに沿って整理する。2.1では、主語の一時的な状態が表される場合、2.2では、(主語の)運動の進行が表される場合を点検する。

2.1 主語の一時的状態 ―用法C：＜一時的状態＞―

2.1.1 用法C1 ―変化動詞の場合―

西日本の多くの方言においては、(2a) (6) のように、主語変化動詞（例えば、「座る」「寝る」）の「～ておく」構文は、主語の一時的状態（＝継続の終了が予期される状態）（‘座っている’ ‘寝ている’ 状態）を表すことができる。この一時的状態は、変化の結果に当たる。

- (6) a. バリバリの関西人ですが、納豆は美味しく頂きますよ。【中略】 小学校の給食のとき、子供たちは平気なのに、先生が食べられなくて、「先生やねんから、食べなあかん」とか「食べ終わるまでそこに**座とき**」とか言われていじめられてました。

members.at.infoseek.co.jp/massay/bishokulife/esseil/natto.htm 【掲示板への書き込み。】 ‘座ってなさい’

- b. 朝とか全然時間ないでしょう。やっぱギリギリまで**寝とき**たいしねえ。

plaza.rakuten.co.jp/king607/4005 ‘寝ててたい’

- c. そして、少なくともこのことだけははっきり言えるのは、その擬似クレオールのことばだけが、唯一、その聴覚障害児が母親と繋がっておくことができた細道だったということです。聞こえない子どもは、この細道にすがって生きていくしかなかったということです。

www.pot.co.jp/pub_list/pub_book/tachiyomi/4939015556/joshou.html【出版物紹介。上農正剛（著）『たったひとりのクレオール 聴覚障害児教育における言語論と障害認識』ポット出版から抜粋。】‘繋がっている’

- d. サンタさんがいるとおもっているとクリスマスプレゼントを二つくれたよ。だからみんなもサンタがいて信じておこう。メリークリスマス

www.citydo.com/vote0312.html【掲示板への書き込み。2003年12月18日。兵庫県、9歳男性。】‘信じていよう’

- e. 先に教室に入っとくよ。 ‘入ってるよ’

- f. 学校に行っとけ。 ‘行ってる’

- g. 発表者は前の方に座っておくこと。 ‘座っていること’

((e) (f) = 工藤真由美2001: 155、類例は同1999: 3; (g) = 真田真治2000: 166)

主語の一時的状態を表す用法を（用法A（例（1a）, 用法B（例文（1b, c）））に続いて）用法Cと呼び、下位分類C1, C2を設ける。C1は、(6)のように、動詞が変化動詞である場合である。C2は、次の2.1.2で取りあげるが、動詞が変化動詞でない一時的状態動詞である場合である。

用法C1は、主動詞の変化の現実性に関して、二分できる。例文（6）(a)～(d)では、変化は、状態の観察と常識的知識をもとに生起が推定されるのみで、非現実である。(e)～(g)では、変化は、現実的である。後者の場合には、「先に」「前もって」「あらかじめ」などの表現によって変化の成立時点を示すことが可能である。

標準語では、用法Cはない：(6)のような文は不可能である。意味特徴(3)《ハ》：＜他動性＞に由来する制限があるからである（⇒第1部）。それに対して、西日本の多くの方言では、同制限がなく、主語の状態を描写する一連の用法が加わる。通時的には、当該の方言で(4)の変化が起こった、と想定できる。

この方言では、(7)のように、「じーと」のような様態修飾表現を使用して、局面p2における主語の状態を描くことが可能である。（標準語では、不可能である：「コインを(*じーと)押さえといってください」(第1部、(15))。)

- (7) コインをじーと押さえといってください。

(8) のような、態度を表す動詞の「～ておく」構文も、用法C1だと考えられる。

- (8) a. あたしたち、しばらくお嬢さん然としとくほうがいいかも。‘...としての’
もっと堂々としとけよ。‘...としての’

- b. 『子育て』 っていうのも大変じゃけど、『介護』 っていうのも大変なことじゃけん。どっちも体力もいるし精神的にも **しっかりしとかと** でんことなんかもしれんな。

(口述筆記。語り手：昭和5年生まれ男性、岡山県苫田郡在住。萬代景子2004：55) ‘しっかりしてない’

- c. 「そこに住んどるモンが **生き生きとしとかと**、【町の】活性化にはつながらん」という國武さんご夫妻。まちづくりの核心をズバリと、そして楽しそうにおっしゃった。

www.fmw.or.jp/press/press1.html

【福岡県浮羽郡浮羽町在住の農業・民宿経営者へのインタビュー。福岡県市町村研究所のホームページ。】 ‘生き生きとしてない’

ここで、(主語)変化動詞のうちで(8)のような動詞について、説明しておく。「優れる」「いかつい体をする」などの動詞(以下、 α と呼ぶ)と、(8)の動詞(以下、 β)の間の共通点と相違点を整理する。

共通点は、(9)の表の(i)～(vi)に、相違点は、(v)(vi)に示される。 α の動詞は、金田一春彦(1947[1976])で“第四種の動詞”と呼ばれるもので、同論文以来知られているように、(i)文末においては「～ている」構文でのみ現れ、(ii)連体修飾においては「た」形でのみ現れる。そこでは、状態が表される。変化は、現実には成立したとは推定されないが、状態に先立って生じたように擬似的に構想されている(大江三郎1975：199, 国広哲弥1986)。文末での基本形は、(iii)変化を表すこともなければ、(iv)状態を表すこともない。これら4点は、 β の動詞にも当てはまる。

(9)

	α	β
(i)	彼女は以前は優れてたが…。	彼は以前は堂々としてたが…。／ 彼女はしっかりしてたのに。
(ii)	優れた人	堂々とした人／しっかりした子
(iii)	*最近優れたな。	*最近堂々としたな。／ *やっとしっかりした。
(iv)	*彼は以前は優れてたが…。	*彼は以前は堂々としたが…。／ *しばらくはしっかりしたのに。
(v)	*もっと優れよう！／ *優れなさいよ！	もっと堂々としてよう！／ しっかりしなさいよ！
(vi)	*優れとく(のは大変だ)	堂々としとく／しっかりしとく(のは大変だ)(用法Cがある方言)

両者間の相違は、(v)意志や命令の表現、(vi)「～ておく」構文(用法C)の可能性に関して見られる。この相違は、次のように、意味的相違に由来する。 α の動詞では、状態は、永続的であり、そのため意図的操作の対象になることは相容れない。一方、 β の動詞では、状態は、一時的であり、それゆえ意図的操作の対象になりえる。(α の動詞

が「～ておく」構文に現れている事例は、第3節で提示する。)

2.1.2 用法C2 ー変化動詞でない動詞の場合ー

(10)の文で使われている「待つ」「住む」などの動詞は、表す事態に、一時的状態の部分はあがるが、その状態にいたる変化の部分がな。2.1.2では、このような動詞の一時的状態を提示する用法を見る。これを、用法C2と呼ぶ。

- (10) a. そーっと、じーっと、春がくるのを**待っとう**。

人間、好調なときと低迷期があるもんだよ。

低迷期にはじーっとしとくのも大事。また笑えるようになる日も来ます。

www.tenasaku.com/mirori/health/sentimental.htm

【2003年3月23日。他ページの内容から、松山市(付近)在住。】‘待つてよう’

- b. ただ一つだけ心に決めていることは、ずーっと上陽町に**住んでおきたい**と思うことです。お兄ちゃんを家から追い出しても私が両親といっしょに住みます。この町で自分の子どもは育てたいと思うからです。

www.joyo-town.jp/mail_maga/backnumber/BN_2003/42_20030114.htm 【福岡県八女郡上陽町のメルマガ。同町出身、福岡市在住者の投稿】‘住んでいたい’

- c. 翌日久々の新宿をうろうろしてから、池袋へ。最初から池袋で**泊まるときや**ええやん、という感じだがなんとなく新宿へ行きたかったのだった。

homepage2.nifty.com/npbcards/drifting/2001/7.htm

【東京旅行記。2001年7月。1971年大阪生まれ。】‘泊まれば’

- d. 「同じ死ぬなら、満75歳で死にたかですな。9月24日までは**生きとき**たかです。」

www.geocities.co.jp/Berkeley-Labo/6421/56.html 【熊本市の病院での知人の発言の記録。9月24日は発言者の誕生日。】‘生きてたい’

なお、(10a)にある「じーっとしとく」「じーっとしてる」は、動詞「じっとする」が変化動詞なので、用法C1に当たる。また、(10b)と異なり、「東京は、若いときに一度**住んでおきたい**。」は、用法C2でなく、用法A：＜効力の作成＞の用法である。

以下で確かめるように、用法C2の動詞(例は(10))は変化動詞でない。このことの帰結として、用法Cは、“完了”(＝終了限界後)という概念で一括できないことになる。C1では変化動詞が使われており、同用法は変化の“完了”と言える。が、C2では変化が含意されないから、これを何かの“完了”とは言えないのである。

両動詞類の相違は、(11)の表の(i)と(iii)に示される。変化動詞(以下、 γ)は、(i)基本形の文で、変化(＝一時的状態の開始)を表すことができるが、C2の動詞(以下、 δ)は、そうではない。(このほか、(ii)のように、一時的状態の継続を表すことは、両動詞ともにできる。)また、(iii) γ の動詞の連体修飾の「～た」形では、変化終

了後に来る状態継続中が了解されてもよいが、 δ の動詞では、状態終了後の状況しか理解されない。

(11)

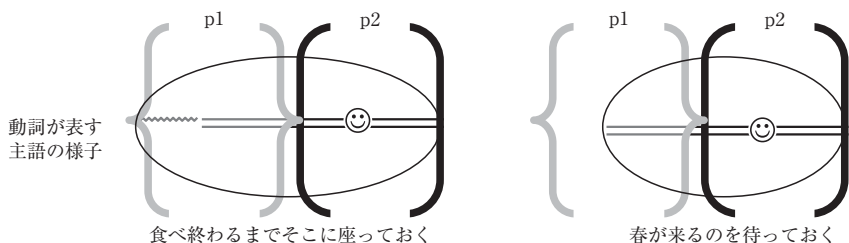
	γ	δ
(i)	その時に {座った／寝た／繋がった／信じた}。	* その時に {待った／住んだ／泊まった／生きた}。
(ii)	しばらくの間 {座った／寝た／繋がった／信じた}。	しばらくの間 {待った／住んだ／泊まった／生きた}。
(iii)	隣の席に座った人／寝た人／厚い友情で繋がった仲間／ウソを信じた子供（を見かけたら...） '→その人は隣の席に座っている'	* {春を待った人／ホテルに泊まった人／この町に住んだ人／まじめに生きた人}（を見かけたら...） '→その人は春を待っている'

（なお、「生きた人（を地面に埋める映画）」のように、動詞「生きる」が形容詞的に使われるときは、同動詞は「優れる」「いかつい体をする」の類の変化動詞である。⇒ (9)の a 類の動詞)

C1とC2の「～ておく」構文の意味は、それぞれ、(12a) と (12b) のように図示できる。

(12) a. C1(= (6) (8))

b. C2(= (10))



(12) の図においては、局面p1の括弧 { } は薄い色になっている。これは、例文 (6) (a)～(d), (8) (10) のように、同局面が擬似的に構想されたものであって、現実のものではないことを示す。(6) (e)～(g) のように、同局面（変化）が現実的であれば、図では、括弧 { } は濃い色になる。波線は運動を、二重線は一時的状態を表す。楕円で囲まれた範囲は、主動詞の描写内容の範囲である。(12) では、◎印が楕円の中にあり、これは、認識者（⇒ (3) <<ロ>>）が主動詞の事態の参加者（主語）であることを示す。【なお、図で、二重線が局面p1 { } の中で始まる場所（左端か、半ばか）には意味はない。】

2.1.3 用法Cの有無の方言差について、本稿の分析と代案

2.1.3では、用法Cの有無の方言差について、本稿が採用する分析の特徴を示す。その過程で、この論点について以前に拙稿（2001）で提出した分析は適切でないことを示す。

本稿では、標準語のような用法Cがない方言において同用法が不可能なのは、《ハ》：＜他動性＞の意味特徴／制約による、と考える。西日本の多くの方言のように、用法Cがある方言では、同制約がないと考える。

「～おく」に関するこの方言差と鏡像をなす方言差は、補助動詞「いる／おる」に関して知られている（工藤真由美1995：262－265, 269, 1996）：標準語の「～ている」構文は、描写の関心を主語へ向ける。そのため、別段の文脈的補助なしには、目的語の結果状態を前面に出しては描かない（そのためには「～である」構文を使うしかない）；西日本の「～てる／～とる」構文は、同じ条件下で、目的語の結果状態を前面に出して描くことができる。

以上を言い換えると、補助動詞「おく」と「いる／おる」の間の対立軸は、標準語では、他動性に関連した概念によってなりたっており、西日本の方言では、そうではない。西日本の方言のあるもの（革新的なもの）では、両補助動詞は、事態認識者（⇒（3）《ロ》）の位置を軸として対立する（拙稿2001など）：「おく」では、叙述対象として文内に含意される；「おる」では、文叙述者である。

標準語で用法Cがない理由として、本稿が＜他動性＞の制約を想定するのに対して、拙稿（2001：66－67）では、‘局面p1は、現実でなければならない（＝非現実であってはならない）’という制約を想定した。これは、方言間の文法的相違は、アスペクト（動詞事態の“どこの部分”を指すか）に関するものだ、とする見方の一変種である。

この分析は、西日本の方言では、局面p1が非現実である例文が可能だという事実に基づいていた。例えば、用法Cの例文「しばらくここに座とこう。」では、変化（「座る」運動）の終了後の状態が表されているが、この変化は常識に基づいて存在が推定されるにすぎず非現実である。また、用法C以外でも、この方言の（5）の⑥に類似の「店は表通りに面しとかないかん。」「面してなきゃいけない」では、状態は「面する」変化の終了後だと擬似的に構想されており、この変化は常識の範囲では実現する可能性さえない。また、同稿であげられた例ではないが、（5）の④「いい体しといて風邪ひいてんの？」でも同様に、「いい体する」変化は、擬似的に構想されたもので、常識の世界では実現しないものである（この表現については、本稿第3節で取り上げる。）。

しかし、この分析は、むしろ、標準語の事実と合わない。標準語においても、局面p1が非現実であることは、用法B：＜（目的語の）状態の保持＞の例のうちのあるもので観察できる。例えば、「あつ、窓が開いている。このまま閉めずに開けとこう。」では、「開ける」運動（働きかけと変化）終了後の状態が表されているが、運動は非現実である。これと対照的に、基本形では、「開ける」運動は現実でなければならない：「*...。このまま閉めずに開けよう。」（⇒第1部pp.70－72）

たしかに、運動局面p1が非現実であることをめぐって、方言差はある。それは、文法的可能性の差ではなく、頻度の大小の差である。この頻度の差は、文法的差から、次のような経緯によって現れるのである。用法Cがある方言では、文法的に、状態局面p2が主語の様子の描写を含むことができることで、使用頻度の面では、局面p2が注目されている事例が多くなる。その分、運動の局面p1が注目からはずれる事例が多くなり、そのうちで、運動局面p1が非現実となっている事例も多くなる。

2.2 主語の運動 ―用法D：＜運動の進行＞―

2.2.1

2.2では、「～ておく」構文が、(2b) (13) のように、主語が運動の状態にあることを表す場合を点検する。この用法を、以下、D：＜運動の進行＞と呼ぶ。

- (13) a. 雨だし寒いし・・・家の中でテレビでも**見とこう**。

osaka.machibbs.net/ut/20030408/log/1032981575.html 【掲示板「大阪府堺市PART-11」への書き込み。2002年11月。】‘見てよう’

- b. 【自閉症児たちに話しかける】最初のきっかけにするつもりだったお昼ごはんも、親御さんから慣れた様子で「私ら**見とく**から自由に**食べときー**」と言われ、いいのかなあと思いつつ、大学生2人で向かい合ってカレー食べてました。

fm8002.ddo.jp/piyo/2003takatuki.html 【大阪市立大学子ども文化研究会「ぴよぴよ」のホームページ。活動報告。】‘見てる’‘食べてなさい’

- c. ギブスやのに家の周りを走り回ってたらあかんで！

ゆっくりしときや。家でサッカーの本でも**読んどきー**。

www.rexind.co.jp/~chujo/jeunesse/k/epad/epad.cgi?page=160

【大阪府守口市の少年少女サッカーチームの掲示板への書き込み。2004年1月。】‘読んでなさい’

- d. 歌いたい…。一人じゃギターも歌もまともにできんけど、でも**歌っとかんと**落ち着かん…(；;)ヘタレる度に、あたしにとって歌は大切なんだなって実感します。歌っとる時が一番幸せ…。聴いてくれとる人がおったらもっと幸せ。

www.tosp.co.jp/ring/tospR020.asp?I=masahiro38 【掲示板への書き込み。福岡県北九州市、小倉駅で活動する女性ミュージシャン。】‘歌ってないと’

用法Dが可能であることは、(4)の通時的変化からの直接的な帰結である。標準語の「おく」は、運動の状態にあるのが対象である場合には可能である：(1c)の文や、「しばらく勝手に**踊らせておこう**。」「犯人を二三日自由に**泳がしておけ**。」では、目的語が運動（‘回る’‘踊る’‘泳ぐ’）の状態にある。用法Dでは、主語がこの種の運動の状態にあるのである。

(13d)は、一回の行為についても取れるし、あるいは、複数回の行為からなる習慣を表しているとも取れる。なお、例文(13c)の「ゆっくり**しとき**」は、用法Cである。

2.2.2 用法Dをめぐる方言差

用法Dが可能な領域の広がりに関しては、方言差がある。差異は2点挙げられる。用法C1を持つ諸方言は、用法Dの広がりに関して3タイプに分かれて階層をなす。最後に、方言差のこのようなありかたに対する動機付けを考察する。

まず1つの方言差としては、用法Cが可能な諸方言のうちには、用法Dがある方言と、

ない方言がある。本稿の以上の説明に沿えば、これがあるタイプについては、特段の説明は不要である。一方、用法Dがないタイプでは、これが不可能であることについて別段の説明が求められる。

私の方言がそれに該当する。用法C1とC2の文(6)～(8)と(10)は完全に自然だが、用法Dの文(13)は全く容認できないほどではないものの不自然である：「??テレビでも見とこう」「??自由に食べときい!」。(13d)は、習慣として解釈すると、容認度がやや上がる。習慣は、事態の運動的な要素の大きさに関して、用法C(C2)とDの中間のようである。)愛媛県宇和島方言もまた、用法Dに当たる文を使わない。工藤1999:16, 2001:156によると、“主体動作動詞”の「～とく」構文は、“動作過程”を表さない：「この本を読んどけ。」は“パーフェクト”を表すが、“進行”を表さない。このような方言では、「おく」は、(14) <非動性>の意味特徴を持っており、それに応じた用法上の制約にしたがっているのだ、と考える。

(14) <非動性> 状態局面p2は動的でない。=状態局面p2は静的である。

(14)は、動詞事態の、いわば、“どのような”部分を指すか、に関するものである。

意味特徴(14)は、補助動詞「おく」についても、いくつかの方言で想定できる(拙稿2004)。例えば、私にとって、「～ておく」構文は、<運動の進行>を表しにくい：「??あつ、あの人テレビ見と一。」「??あの人たち自由に食べと一。」(こことこれ以下では、“本動詞+補助動詞「いる」または「おく」”の部分を、太字・下線で示す。)

用法Dが不可能な理由として、(14)の意味特徴に代わりに、‘状態が何らかの点で“完了”(=先行事態の終了限界後)である’という意味特徴では、適当でない。この代案は、アスペクト(動詞事態の“どこ”部分を指すか)に関するものである。しかし、これは、以上(⇒2.2)で見た事実と適合しない：用法C2(先行変化が擬似的にも含意されない一時的状態)と用法C1(先行変化が含意される一時的状態)は、私の方言では、適格性に区別なく、ともに完全に自然である。

方言差のもう1点は、用法D:<動作の進行>がある諸方言のうちで、この用法が対象変化を含意しない動詞に限られるか、それとも、含意する動詞・含意しない動詞ともに可能であるか、に関する。(この方言差は、補助動詞「おく」については、工藤2001:156で指摘された。それに先立って、並行的な形の方言差は、補助動詞「おく／いる」について工藤1983, 1998, 2001などで指摘されている。) (13)の動詞(「テレビを見る」など)は、対象変化を含意しない。手元にある実例は、このタイプの動詞に限られる。同様の制限は、京阪方言(沖1996:37)、大阪方言(高田1999:66-67)で報告されている。一方、一部の方言においては、対象変化を含意する動詞にも<動作の進行>の用法が可能である。工藤(2001:156)によれば、福岡県北九州方言では、「本を読んどぎ。」(対象変化をもたらさない動作)だけでなく、「洗濯物、干しとけ。」(対象変化をもたらす動作)もまた、運動の進行(‘本を読んでろ’‘洗濯物干してろ’)を表せる。

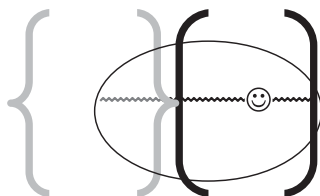
上述2点の差異は、動詞事態の種類を“終了限界が想起される傾向”を尺度に順序付けることで、統一的に記述することができる。すなわち、“一時的状態<対象変化をもたらさない運動<対象変化をもたらす運動>”の順で、右側にあるものほど、「～ておく」構

文では、終了限界が想起される傾向（終了限界の卓立度）が大きい。それに応じて、右側にあるものほど、終了限界が未生起のものとして提示されにくい。方言差は、できにくい場合のどこまで可能かが方言によって異なることの現われである。（この説明論理は、拙稿2004で、「～ておる／ている」構文（＝補助動詞「おる／いる」）に適用した。より詳しくは、同論文を参照されたい。）

用法Dの意味を図示すると、(15) のようである。

(15) a. (= (13))

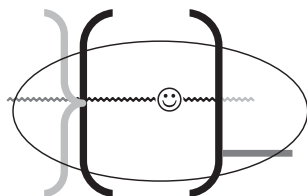
b.



テレビでも見とこう

主語

目的語



洗濯物、干しとけ（福岡県北九州方言）

2.2.2 「～φおく」構文

一部の方言では、＜動作の進行＞を表す形式として、「～ておく」構文のほかに、(16)のように、主動詞の後に「て」を介さず補助動詞「おく」を続けた形式（以下、「～φおく」構文）がある。この形式の記述は、岡野信子（1984：70）（福岡県飯塚市）、村嶋貴雄（1989）（福岡県糟屋郡篠栗町）、田口聡子（1992）（大分県各地）、住田幾子（1994：268）（北九州市若松区）、工藤真由美（1995：267－268, 2001：155愛媛県宇和島市；1999：9－11広島市から九州にわたる数地点）にある。この形式は、伝統的方言にはなく、成立年代に関して“新しい”ものだとされている（村嶋、田口、工藤）。（岡山市では、年配の話者から1985年前後生まれの話者にわたるいずれの世代にも観察されない。）

(16) a. 明日台風がくるよ。

偶然BOMが100円レンタルの日だから映画でも借りて見よう。

dklog.jp/u/nabechanchin/

【日記。1984年生まれ男性。熊本在住。2004年9月7日。】‘見てよう’

b. 今日の晩御飯のお話。献立はカレー。

ちょうどいいサイズのスプーンが2本見付からない。

ウチは4人家族。先に弟と父が食べ出す。私はその間、お茶の用意。

すると、座ってお茶を入れていた私に母は言いました。

「ごめん、すぐスプーン持ってくるけん食べよさい。」

スプーン無いのにどうやって食べるんですか？

www.f2.dion.ne.jp/~newpea/nititen/2003/009.htm 【日記。1979年生まれ女性。福岡市在住。2003年9月1日。】‘食べてなさい’

私にとっては、用法D：＜運動の進行＞では、「～*φ*おく」構文が使われ、「～ておく」構文は使われない：{??(13)／^{OK}(16)}；(15b)に相当する文は、「洗濯もん {??*干*しときい／^{OK}*干*しよきい！}」「洗濯物干してろ」。

また、用法C：＜一時的状態＞では、「～ておく」構文が使われ、「～*φ*おく」構文は使われない：例文(6)～(8)や(10)の状況については、「そのまま ^{OK}*座*っときい／**座*りよきい！」「しばらく外で ^{OK}*待*っときい／**待*ちよきい！」「この町にずっと ^{OK}*住*んどきい／**住*みよきい」たい。「～*φ*おく」構文が使われない理由は、この方言の「～*φ*おく」構文には、意味特徴／制約＜動性＞‘事態が動的である＝事態が静的でない’があるからである。同方言では、「～*φ*おる」構文についても、「～*φ*おく」と並行的な使用上の制限が観察され、同じく＜動性＞が想定される(拙稿2003b, 2004)：「あの人、さっきから ^{OK}*座*っとー／**座*りよー。」「友人が外で ^{OK}*待*っとー／**待*ちよー。」「あの方は〇〇町に ^{OK}*住*んどー／**住*みよー。」。「～*φ*おく」「～*φ*おる」構文の＜動性＞は、意味内容的に、「～ておく」「～ておる」構文の(14)＜非動性＞の裏をなす。

なお、(3)にあげる3つの意味特徴のうち、＜イ＞＜2つの局面＞は、「～*φ*おく」「～*φ*おる」の両形式には該当しない。この意味特徴からは“完了”を中心とした用法領域が実現することになるが、両形式では“進行”を中心に用法範囲が広がっている。したがって、＜動性＞を記述するに際しては、局面p1, p2を区別して言及する必要はない。

3. 非意志的用法 —非意志的事態における主語の状態が描写される—

第2節では、ある方言において、意志的文脈で用法が拡張している様子を見た。このような方言(のうちのあるもの)においては、並行的な用法拡張が非意志的な文脈にも波及している。第3節では、非意志的文脈を取り上げる。該当する方言では、以上で見た用法C, Dに加えて、E：＜永続の状態＞(‘立派な体をしている’など)が可能である事実が目にとまる。

補助動詞「おく」が非意志動詞に付くことのできる構文環境は、標準的方言では、(17)のようにまとめられる(第1部の(32)を再掲)。

(17) 標準語で「おく」が非意志動詞を取ることのできる環境

- I 「～ておく」構文が逆接節にある(主語は人である)(⇒第1部2.2)
うちの妹は、2度も試験に*落ち*といてまだ平気である。
- II 「～ておく」構文の事態が望ましいものとして叙述されている
(主語は人である)(⇒第1部2.3)
水疱瘡は子供のうちに*かか*って*お*かないと大人になってかかると大変。
- III ある種の補助用言・語尾が「～ておく」構文に後続している
(主語は人に限られない。)(⇒第1部2.4)
今のうちに降るだけ*降*って*お*いてほしい。(補助形容詞「ほしい」が後続)
今のうちに*降*って*お*け！(命令形語尾が後続)

本稿においても、(17)に示される範囲を扱い、その分類法にしたがって論を進める。

3.1, 3.2, 3.3の各節で、それぞれ、場合Ⅰ, Ⅱ, Ⅲを取り扱う。なお、方言によっては、「おく」は、(17) の場合に加えて、それ以外の場合にも非意志動詞が許される。そのような方言は、別稿（第3部）で扱う。

すでに第1部では、非意志的用法に関して、局面p2における主語の様子が描写されていない事例、すなわち、A：＜効力の作成＞あるいはB：＜対象の状態の保持＞の事例を見た。本稿では、主語の状態が描写されている事例を見ていく。

3.1 非意志の場合Ⅰ：補助動詞「おく」が逆接節にある（主語は人である）

3.1.1

「～ておく」構文は、逆接の「ながら」「て」節にある場合には、非意志的な事態を表すことができる。

人主語で非意志的であるという解釈は、事態が＜永続的状态＞である場合に明確に得られる。以下、＜永続的状态＞を、用法Eと呼ぶ。用法Eは、(用法A～Dとは異なり、) 継続期間の限界が想起されず、意志的制御のもとに入るようには把握できない。ゆえに、用法Eは、必ず、非意志的である。(なお、C：＜一時的状態＞またはD：＜運動の進行＞で、かつ非意志的であることが明確である例は、予期しているが、見つけることができないでいる。)

(18) は、用法E：＜永続的状态＞の実例で、話されたものである。

(18) えー体しといて風邪ひいてんの？

(テレビのバラエティ番組で、関西出身のコメディアンがくしゃみをした裸の男性に) ‘君、いい体してて風邪引いてんの？’

インターネット上では、例えば、(19) のような類例が見られる。動詞は、「いい体をする」「整った顔をする」など。これらの動詞は、文末位置では基本形で現れず、「～ている」構文で現れる。そのとき、身体の形状を描写する：「いい体してるな。」「整った顔してるね。」。インターネット上での観察では、筆者の出身地は、関西を中心にして、わずかに首都圏にまで散らばる。やや、文体的には、こっけいな調子を感じられる文脈(内容と言葉遣い)が多い。これから察するに、これらの文の筆者が属する方言においては、この用法は、定着した言語慣習の領域のわずかに外側にあり、文は、即興的な用法拡張を行うことで斬新さの表現効果を狙っているようである。

(19) a. 俺様、こんな横に**大きな体をしておき**ながら、実はすんげえ低血圧だったりします。

www2s.biglobe.ne.jp/~t-doujyo/kansai2.html【日記。1972年生まれ男性、関西出身、東京都在住。】‘大きな体をしていながら’

b. じゃあ、こっちも言わせてもらいまひょ。そんな**大きな胸しといて**、「胸デカなるクリーム欲しい！」はないやろ、あんさん。それ以上大きしてどないするねん。牛になって牧場にでも嫁ぐ気かいな。

www.icv.ne.jp/~risa/fanta/dasaku/bn/another/onnanokaiwa.html

【日記「創作5「女の会話」」。内容から、大阪在住の女性、20歳台ないし30歳前後。】‘大きな胸してて’

- c. その後は、チビッコユウジさんとno peopleフミ君のコンビによる爆笑漫才トークで楽しめました。ビックリするくらい面白かったです。2人とも、めちゃくちゃ**整った顔しておきながら**、中身がハイパー過ぎます。

www.008.upp.so-net.ne.jp/rock-mind/special/20020817.html【日記。1976年生まれ。東京在住。2002年8月17日。】‘整った顔していながら’

- d. どっちかって言うと、フカキョン【=深田恭子、女優】には【拒食症より】過食症の方が【似合っている】...寝てる時のアゴったらもう...（以下、自粛）【中略】まさか、あんな**パンパンな顔しといて**「拒食症が原因で死ぬ」なんてことは無いやろね。

www.twinn.ne.jp/~setopi/niki-dora/d11-sos.html【日記。「なにわ」在住、年齢「みそじ」の女性。テレビドラマの批評。】‘パンパンな顔してて’

- e. 良いじゃないか、別に。機械を身体に埋め込まれようが、生きてんだからさあ...。あんな伸びた**玉ねぎみたいな頭しといて**（←関係ない）見かけの割には結構繊細なヤツだったんだなヌージ。全く面倒臭い男だ...。

www1.ttcn.ne.jp/~HIKARIDOU/102katari.htm【「ヌージ」（=ゲームに登場するキャラクター）について感想。】‘玉ねぎみたいな頭してて’

- f. ていうか私、「痩せろ」と言う男、大嫌い。勿論、限度はあるよー？

だけどさ、自分も**太っておきながら**「痩せろ」と言ったりさ

自分は何の努力もしないくせに、女には理想を押し付ける男、大嫌い。

bokutama.jugem.jp/?eid=12【日記。この引用の内容から、女性。2004年8月11日。】‘太っていながら’

- g. ほら、【私、Konishikiは】やっぱりこんな体してるぐらいだから甘いものがすごい好きなのね。なかでもアイスは、本当に大好きなの。一番好きなアイスは『ガリガリくん』なんだけどさあ

僕がそれを買う度に、お店のレジの子にツッコまれるんだよ。

「そんだけブクブク**太っ**といて、ガリガリって！」

だから、仕方なくハーゲンダッツ（業務用 5L）を買うんだ。ハワイが恋しいよ。

omecoboshi.cool.ne.jp/diary/diary0305.html【日記。元力士・タレント、Konishikiを題材に創作した小話。】‘太ってて’

なお、(19)の動詞のいくつかは、用法E：＜永続的状态＞以外の用法でも使われる。動詞「（～な）顔する」は、「あちこちにいい顔しよう。」のように、用法A：＜効力の作成＞で使われる。そして、この場合は、意志的である。また、「太る」は、「～かけて

太っという...」のような変化過程の期間や、「10kgも太っという...」のような変化の量が示されていれば、非意志的な用法Aにある。(用法Aの意志の場合と非意志の場合については、第1部を参照されたい。)

(20)の例は、「似ておく」の例である。主語「(10月の)3連休」は、文字通りには非情物であるが、「ニヒルなヤツ」「ニクイ奴」などの通常は人に係る形容が与えられていることから、ここでは有情物扱いをされている、と考えられる。

- (20) 10月11【日】金曜日 晴れ。皆さん。3連休です。いい響きですね、三連休。三連休にちょこっと似ておきながらその実全然違うニヒルなヤツ。

何をしようか何をすべきか、考えるだけでわくわくしてくるニクイ奴。

www.geocities.co.jp/Bookend-Akiko/7968/diary25.html

【日記。奈良県在住。他ページに「学校のハイキング」と記載から高校生か。】‘似ていながら’

例文(19)(20)での動詞は、変化動詞である。そこで示されたように使われる変化動詞には、「優れる」「いかつい身体をする」のような、文末で「～ている」構文でしか現れない動詞(9)の、aの動詞)が含まれる。

「存在する」も、(21)のように、「～ておく」構文が<永続的状态>を表す。主語「お役所」は、文字通りには団体だが、人になぞらえられている、と見なせる。

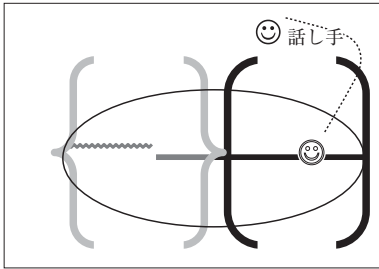
- (21) 現在の環境問題に対する取り組みとして疑問に思うのは、スーパーで買い物する時に出る袋。【中略】 環境省というお役所が存在しておきながらここにスポットを照らさないのはそれほど問題視すべき箇所ではないからなのでしょうか。

2.suk2.tok2.com/user/dbtakuya/?y=2004&m=06&all=0【日記。2004年6月15日。他ページに「生まれも育ちも兵庫だ。】‘存在していながら’

なお、「存在する」は、変化動詞ではない。これは、連体修飾の「～た」形が状態継続中を表さないことで示される：「*山奥に存在した洞窟（を見かけたら...）」（これと、変化動詞(9)のa、(11)のγと比較せよ）。この動詞は、永続的状态の部分だけを持つ。このことに応じて、基本形にあっても、永続的状态を表す：「たくさん存在するね。」

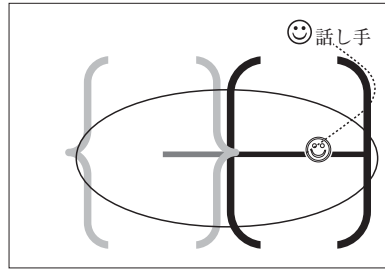
用法E：<永続的状态>の「～ておく」構文の意味は、(22)のように図示することができる。(a)は、状態が擬似的な変化の結果のように捉えられる場合、(b)は、同種の変化が構想されない場合である。(22a)は“完了”だと言えるが、(22b)はそうではない。両者の相違は、C：<一時的状態>の場合の、C1(15a)とC2(15b)の相違(⇒2.1)と並行的である。

(22) a. (= (18)～(19))



大きな体をしておきながら...

b. (= (20))



存在しておきながら...

(22) の図では、◎が楕円の外に置かれており、これは、認識者 (⇒(3)《ロ》) が動詞事態の参加者ではないことを表す。このことによって、動詞事態が意志的である必要が生じない。全体を囲む四角は、「～ておく」構文を従属節として含む文全体が含意する範囲を表す。◎と◎を結ぶ点線の曲線は、文中に含意される人物◎ (話し手がそれに当る) が主動詞の主語◎に成り代って動詞事態を認識していることを表す。

3.1.2 非意志の「～ておく」構文が可能な中止位置の「て」形は、限られた用法のものだけである

非意志的な「～ておく」構文の「て」形 (「～しておいて」) の用例は、3.1.1の (16b, d, e, g) のような、逆接の用法に限られている。これに対し、「～ている」構文の「て」形 (「～していて」) は、同様な制限にはかからず、より広い範囲の用法にわたり使用可能である。つまり、非意志の「おく」には、(17) のⅡの意味的制限 (逆接の環境にある) があるのである。

「～っていて」の用法としては、(23) にあるように、(a) のような逆接の用法のほか、そのほかの多様な主節・従属節の意味的つながりを表す用法がある。(b) (c) では理由・根拠が提示される。そのうち、(b) では事態が望ましい場合、(c) は事態が望ましくない場合である。(d) では、背景的状况を述べる (理由・根拠など特段の役割を節に認めにくい)。

(23) a. ちゃんとアシからしく (?) 泳いでましたー。あんなサツマイモみたいな体してて (...人のこと言えないけど...) 海のなかではとっても機敏なんです。

www.wave.au.com/australia/round/kimagurp2011/2011.htm

【観光旅行記。動物園のあしかについて。】

b. いいね～男のシンクロ！みんな真っ黒に日焼けして、引き締まった体してて かつこええ！

www.tsutaya.co.jp/item/com/cp_use00000001.zhtml?pdid=10018969&catcd=1 【ビデオ「ウォーターボーイズ」について、購入者による批評。2002年6月24

日。】

- c. 僕、太ももだけ相撲さんみたいな体してて困ってるんですが、太ももだけやせる方法ありませんか？

sport-indoor.ten.thebbs.jp/1085743574/0

【掲示板への書き込み。2004年7月5日】

- d. 寮でパンツ一つになってさらに巻いてハッピー着て着替えるのですが、いつも若い人はピチピチの体してて、自分のお腹みてがっくりします。

www.internet-ex.com/uranai/letter/2004/07/08.html

【職場の会社が神輿担ぎに参加、会社の寮で着替えをしたときのこと。】

一方、「～ておいて」は、(23) (b)～(d) のような文脈で使われた実例が見当たらない。(私にとって、意味的な理由でなく、形態論的理由(補助動詞「おく」の音便形は母方言では「おっ(て)」である)によって、(19b, d, e, g) はすでにぎこちない(‘??’)。これに対して、(23) (b)～(d) の「～ていて」を「～ておいて」に置き換えた文は、さらに容認度が劣る：(23b) → 「*引き締まった体しといてかっこいい。」、(23c) → 「*お相撲さんみたいな体しといて困っとーと。」、(23d) → 「*若い人はピチピチの体しといて、自分のお腹みたらがっくり。」)。

(24) の非意志の「～ておいて」節は、逆接の働きをしていない。この非意志の「～ておいて」は、一見上述の一般化に合わずに出現しているように思われるが、そうではない。文末(「天気になって欲しい」)に補助形容詞「ほしい」があり、「～ておいて」節は意味的にその領域に含まれている。つまり、非意志的「おく」は、「降っておいてほしい」におけるのと同じく、「ほしい」の存在によって認可されている((17)のⅢ；⇒第1部2.4)。

- (24) まるで梅雨・・・?!

ものすごいどしゃ降りでした(T_T)時折り雷も鳴っていました。【中略】

なんか、このまま梅雨になりそうな気がしてきました(^^

おっと、もうすぐ大型連休だから、今のうちに降っておいて

連休中は、爽やかな天気になって欲しいもんですネ(^o^)

yumemaru.com/s/2002-04/2002-04_23.html

【日記。鹿児島在住。2004年4月23日。】‘降っておいて’

3.2 非意志の場合Ⅱ：「～ておく」構文の事態が望ましいものとして叙述されている(人が主語である)

(25) は、「～ておく」構文において主語の状態が述べられている例である。

- (25) a. 左端：デブ。

左2番：太り気味。普通-

右2番：ポッチャリ系。潜在能力はある【。】痩せとけば昔のアイドルみたい

な顔。

右端：というか全体的に太ってるな。

okazu.bbbspink.com/test/read.cgi/ascii/1078670010/-100

【掲示板「卒業アルバム画像その7」への書き込み。写真に写っている女子生徒の容姿について批評。】‘痩せてれば’≡‘スリムなら’

- b. そこからカメラの話になり、先日の「Ayu Ready?」【出演した番組名】のお話に。【中略】 カメラを通すと太って見えるので、テレビの世界で痩せて見える為には一般レベルではガリガリなくらいに**痩せておく**必要がある、なんて事を言っていました。

page.freett.com/cococ/log/03_04.html

【日記。女性アイドルタレントの談話を要約。24歳（2004年）、男性。熊本県在住。2003年4月21日】‘痩せている’≡‘スリムである’

主語が人であって、かつ事態が非意志的であるという解釈が明確に得られるのは、(25)のような、E：＜永続的状态＞の場合である。一方、同じ条件が整ったC：＜一時的状態＞の例やD：＜運動の進行＞例は、（存在を期待するが）これまでにみつけることができていない。

「存在する」も、E：＜永続的状态＞で使われる。

- (26) セントラル【プロ野球リーグ】は文字通り今の日本の中心地東京・横浜にのみチームが**存在しておけば**いいんじゃないか!?

www.prco.jp/~tetsu/diary0406.html

【日記。1977年生まれ。神戸市出身。】‘存在していれば’

3.3 非意志の場合Ⅲ：「おく」にある種の補助動詞・補助形容詞・語尾が後続する場合（主語は人に限られない）

非意志動詞の「～ておく」構文が現れる構文環境の第3のグループは、「おく」にある種の補助用言・語尾が後続する場合である。該当する補助用言は、「もらう」「くれる」「ほしい」であり、語尾は、命令形語尾である。この用法では、主語は人に限られず、非情物も可能である。

(27) では、「～ておく」構文が主語の状態を描写している。(a)～(c) は、用法C：＜一時的状態＞の例、また、(d)～(f) は、用法E：＜永続的状态＞の例である。例文中の動詞「晴れる」「付く」「整う」「落ちる」は、いずれも、主語変化動詞であることを確認されたい。文の一時的状態あるいは永続的状态は、これら動詞の変化結果状態に当る。以下、「が」格表示の非情物名詞句があれば波線で示す。

- (27) a. やっと六甲にいけそうやわ～。この天気やったらなんとかなる！

わしの計画ではその日が晴れててもいかん

というのも、地面がぬかるんだったら靴が汚れるからである。

だから当日の二三日まえから**晴れ**とい**て**もらわんと～。

www.geocities.co.jp/Athlete-Crete/5008/hitorigoto_17.html

【日記。大阪市在住。2002年7月20日】‘晴れてて’

- b. 「天気良かったら甘えてくれるんや～vこのままずっと晴れといてくれへんかな？」

members.at.infoseek.co.jp/gokutou15/sannyday.htm ‘晴れてて’

- c. それから、逆にはなりますが、全体のスケジュールなんですけれども、この報告につきましては、3月の上旬にこの分科会を終了させる、親部会に上げて、最終的には安全委員会で報告するという形になっております。逆算いたしますと、2月上旬にはほぼ完成形ができておいてほしい。

www.nsc.go.jp/senmon/soki/teisen/teisen_so14.htm 【議事速記録。2003年2月3日。丹羽太貫主査（京都大学）の発言。】‘できていて’

- d. 住みコミでのワガママ

ネコが飼いたい

お風呂がついておいて欲しい

www.sumicomi.com/sumi_yuzu.html 【神戸にある大学の学生、沖縄出身、女性。借家についての希望。「住みコミュニケーションプロジェクト」（＝住みコミ）（神戸市）のホームページ。】‘付いていて’

- e. 携帯電話で新ビジネスを考える【中略】そして、これからの携帯電話に私が望むことは、メールなどを打つときに音声は文字に、文字が音声にすぐ変わる携帯電話だ。こうなると、目や耳が悪い人も使うことができるようになる。また、防水機能も整っておいてほしい。

home.hiroshima-u.ac.jp/u1402013 ‘整っていて’

【大学生の起業案。2002年6月6日。】

- f. 財布に、300円しかない。大阪から三宮までは、390円。【中略】こうなったら・・・探すしかないな。大阪駅ほどのデカイ駅だ。100円ぐらいは落ちてるっしょ。・・・

おのれ、大阪駅。貴様、見掛け倒しか。この根性なし！役立たず【「役立たず」の誤記】！100円ぐらい、落ちとけ！

www.geocities.jp/pingu_jam/noumiso69.htm

【日記。大阪在住。】‘落ちてろ’

例文（27c）にある時間句の機能について、補則しておく。「2月上旬に（は）」は、状態の継続期間に含まれる時点を表す。「～ておく」構文は、変化（完成形ができる）後の状態がこの時点をまたいで継続することを述べている。これに代えて、「2月上旬までに（は）」であれば、変化の時点が含まれる期間を表す。このときは、「～ておく」構文は、変化がその期間内に生起することを述べる。これは、非意志的な用法A：＜効力の作成＞である（⇒第1部）。2つの場合で、描かれる状況は真理条件的には同じだが、捉え

方が異なる。

補助動詞「おく」に関するこの現象と並行的な現象が、補助動詞「いる」に関してはよく知られている（工藤1989：74-75など）。「2月上旬には、完成版ができているだろう。」（“結果状態”）；「2月上旬までには、完成版ができているだろう。」（“パーフェクト”）。

(28) は、D：＜運動の進行＞の例である。

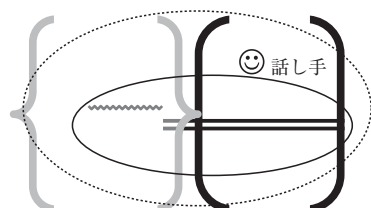
- (28) また、上空はある程度風が吹いておいてくれないと一向に進まないけれども、地上でバルーンを膨らませ、テイクオフする際には木の葉がそよぐくらいの風でも、うまく膨らまずに飛行中止になるんですって。

www2.jfn.co.jp/road/video/saga.html

【熱気球について。】‘吹いていて’

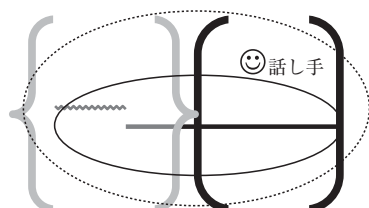
(27) にある、変化動詞の結果状態の例文のうち、C：＜一時的状態＞は (29a) のように、E：＜永続的状态＞は (29b) のように、図示できる。(28) のD：＜運動の進行＞の例文は、(29c) のように図示できる。

(29) a.



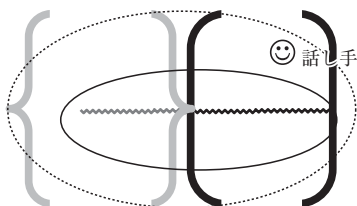
晴れておいてもらわんと

b.



お風呂がついておいて欲しい

c.



吹いておいてくれないと

図 (27) において、実線の楕円は、主動詞が描く範囲を示し、点線の楕円は、“主動詞＋補助用言「もらう」など”が描く範囲を示す。認識者（⇒(3)〈ロ〉）は、主動詞の参加者ではないが、補助用言によってもちこまれ含意される人物である。これが主動詞の参加者でないことで、主動詞が意志動詞である必要を免れている。

4. まとめ

本稿（＝第2部）では、補助動詞「おく」の諸方言における諸用法のうち、図（5）の例文③④に当る範囲を扱った。また、すでに第1部では、同例文①②に当たる範囲を見ている。これらの用法を、意味的特徴によって分類し、p.24の図に一覧する。状態的局面p2における事態の種類と、意志性の有無という2点に着目する。

図の列は、状態的局面p2で描写されている事態の種類による分類である。用法A，Bは、第1部で、用法C，D，Eは、本稿で取り上げた。用法Aでは、局面p2においては、主語、目的語いずれの様子も描写されない。状況について効力の残存が述べられる。図の太破線は、事態の種類を区別せずに括った表示である。用法Bでは、目的語の状態が描写される。用法C，D，Eでは主語の状態が叙述内容に入る。主語の様子は、Cでは一時的状態、Dでは動作の進行、Eでは永続の状態である。用法Eの用例に時折こっけいな語感が伴って見られることから、Eは方言あるいは構文環境によっては言語慣習における定着度が低いことが推察される。

図の行は、事態の意志性の有無による分類である。非意志的用法の行では、非意志的用法が可能な場合の3類（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）は、区分せず示した。用法A～Dについては、意志的・非意志的の両方の事例が実際に観察される。用法Eは、必ず、非意志的である。諸方言の補助動詞「おく」（ないし「～ておく」構文）は、共通して、意味要素（3）《イ》<二つの局面>と《ロ》<認識者>を持っている。その表れとして、多くの用例が、“完了”（＝終了限界以後）を示し、意志的事態を表すことになる。方言間の相違点は、動詞事態の“どのような”部分を指すか、を述べる意味特徴を持っているどうか、にある。すなわち、（3）《ハ》<他動性>や、（15）<非動性>の有無である。この文法的相違から、動詞事態の“どの”部分を指すか、つまり、アスペクト、に関して、機能的相違が派生する。すなわち、局面p1での事態が非現実である用例が多いかどうか、また、“進行”（＝開始以後かつ終了以前）を表すことが可能かどうか、に関する相違である。

*この論文のもとになっている研究は、ウエスコ学術振興財団 平成16年度学術研究費助成、および日本学術振興会平成17年度科学研究費補助金（両件とも研究代表者は山部順治）の助成を受けて行われた。

用例の出典

萬代景子（2004）「人との出逢いー福祉に携わってー」田中宏幸・「日本語表現法」03年度受講生（編）『「日本語表現法」聞き書き集・第八集 迷インタビューアー』pp.53-56. ノートルダム清心女子大学、日本語日本文学科。
インターネット上での用例検索には、Google（<http://www.google.co.jp/>）の検索エンジンを利用した。

研究文献

- 大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究－主観性をめぐって』 南雲堂.
- 岡野信子 (1984) 「方言の文法、表現法の記述」『国文学解釈と鑑賞』 49: 7, pp.65－80, 至文堂.
- _____ (1994) 「福岡県八女郡星野村方言のアスペクト」 方言研究ゼミナール (編) 『方言資料叢刊』 4, pp.270－279, 広島大学.
- 沖裕子 (1996) 「アスペクト形式「しかける・しておく」の意味の東西差一気づかれにくい方言について」 平山輝男博士米寿記念会 (編) 『日本語研究諸領域の視点』 上巻, pp.30－46, 明治書院.
- _____ (1998; 1999) 「チャレンジコーナー」『月刊言語』 27(11), p.136; 28(1), pp.124－129, 大修館書店.
- _____ (2000) 「アスペクトからみた動詞分類考—「気づかれにくい方言」にふれて—」『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』 pp.51－68, 信州大学.
- 金田一春彦 (1947) 「国語動詞の一分類」再録: 金田一春彦 (編) (1976) 『日本語動詞のアスペクト』 pp. 5－26.
- 工藤真由美 (1983) 「宇和島方言のアスペクト (その一)」『国文学解釈と鑑賞』 48(6), pp.101－119.
- _____ (1989) 「現代日本のパーフェクトをめぐって」言語学研究会 (編) 『ことばの科学』 3, pp.53－118, むぎ書房.
- _____ (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』 ひつじ書房.
- _____ (1996) 「2つのアスペクト体系の比較対照と一般アスペクト論」言語学林 1995－1996編集委員会 (編) 『言語学林1995－1996』 pp.559－570, 三省堂.
- _____ (1998) 「西日本諸方言と一般アスペクト論」『月刊言語』 27(7), pp.34－40, 大修館書店.
- _____ (1999) 「西日本諸方言におけるアスペクト対立の動態」『阪大日本語研究』 11, pp. 1－17.
- _____ (2001) 「アスペクト体系の生成と進化」『ことばの科学』 10, pp.117－173, むぎ書房.
- 国広哲弥 (1987) 「アスペクト辞「テイル」の機能」『東京大学言語学論集』 8, pp. 1－7.
- 真田真治 (2000) 「脱・標準語の時代」小学館文庫.
- 住田幾子 (1994) 「福岡県北九州市若松区方言のアスペクト」 方言研究ゼミナール (編) 『方言資料叢刊』 4, pp.264－269, 広島大学.
- 高田祥司 (1999) 「大阪方言におけるテオク形の用法—東京方言との対照を中心に—」『現代日本語研究』 6, pp.51－77, 大阪大学.
- 田口聡子 (1992) 「大分県方言における「ヨク・チョク」の実態」『国語の研究』 17, pp.17－28, 大分大学国語国文学会.
- 村嶋貴雄 (1989) 「福岡県篠栗町方言のアスペクト」『九州大学言語学研究室報告』 11, pp.126－127.

- 山部順治 (2001)「補助動詞「おく」の意味」『ノートルダム清心女子大学紀要 日本語日本文学編』25, pp.53-78.
- _____ (2002a)「岡山市とその近郊の若者の日常生活語における、補助動詞「おく」「おる」の文法的使い分け：ノートルダム清心女子大学英語英文学科の学生を対象とする、質問票調査の報告」『ノートルダム清心女子大学紀要文化学編』26, pp.14-36.
- _____ (2002b)「岡山市とその近郊の日常生活語における、補助動詞「おく」の用法：「スイカは冷えとか(!)んとおいしゅーねーよ」」『日本方言研究会第74回研究発表会 発表原稿集』pp.17-24.
- _____ (2003a)「補助動詞「おく」が表す、事態の価値評価：岡山市とその近郊の若者の日常生活語からの資料」『ノートルダム清心女子大学紀要日本語日本文学編』27, pp.83-118.
- _____ (2003b)「岡山方言の、進行アスペクトを表すことができる3つの補助動詞「～よーる」「～とる」「～とく」」『日本方言研究会第76回研究発表会 発表原稿集』pp.25-33.
- _____ (2003c)「西日本方言で進行中の文法変化：＜動詞事態が望ましい＞という概念をめぐる」『清心語文』5, pp.左11-23, ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会.
- _____ (2003d)「西日本方言の補助動詞「おく」の、事態が望ましいことを表示する機能」『日本言語学会第127回大会予稿集』pp.104-109.
- _____ (2004)「進行アスペクト辞の文法の話者間変異と言語・方言間変異—岡山方言の資料に基づいて—」『ノートルダム清心女子大学紀要日本語日本文学編』28, 論文編pp.1-30, 資料編pp.31-56.
- _____ (2005)「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路 第1部—標準語的な用法—」『ノートルダム清心女子大学紀要文化学編』29, pp.45-76.

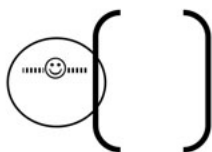
意志的

非意志的

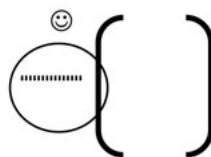
(場合 I~III)

A

<効力の作成>



ゴミは朝 8 時半までに出しとい
てください。
今日はラーメンにしよう。

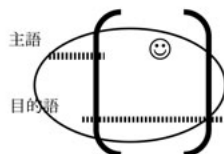


2 度も試験に落ちといて、...。
今のうちに降っておいてほしい。

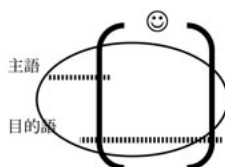
B

< (目的語の)

状態の保持>



このまま窓を開けておこう。
しばらく扇風機を回しておこう。

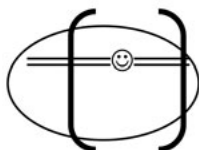


人の足踏んどいて、...

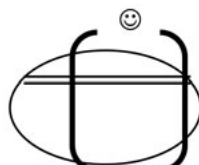
C

< (主語の)

一時的状態>



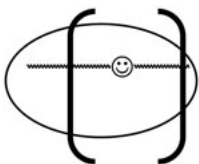
食べ終わるまで座ときい。
ずっと住んでおきたい。



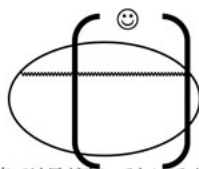
二三日前から晴れといてもらわ
んと、...

D

<運動の進行>



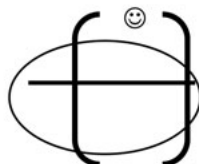
先に食べときい。



上空では風が吹いておいてくれ
ないと、...

E

<永続的状态>



いい体しといて、...。
お風呂が付いておいてほしい。